

## 地域緑のまちづくり 交流会テーブルテーマとアドバイスまとめ

交流会の開催に向けて関係団体に検討したいテーマを募集して次の7つに整理しました。

- テーマ1 植えた植物の盗難・いたずらへの対応
- テーマ2 イヌの糞尿への対策
- テーマ3 予期せぬ出来事への対応
- テーマ4 組織の移り変わりへの対応
- テーマ5 活動資金の確保への工夫
- テーマ6 メンバーの継続的な確保への工夫
- テーマ7 組織での活動継続の工夫

以下に、7つのテーマについて、まちづくりの専門家である特定非営利活動法人横浜プランナーズネットワークからのアドバイスをまとめました。

### テーマ1 植えた植物の盗難・いたずらへの対応

自分たちで植えた大事な植物を盗まれてしまうと、日々活動しているみなさんはがっかりしてしまいます。地域の目で「見ている」ことを書いた盗難防止の看板を設置するとともに、プランターが壊されるなど、特に悪質な場合は地域の警察署に頼んで巡回頻度を増やしてもらいましょう。活動されているみなさんから、花壇の近くにいる人に普段から挨拶し、積極的にコミュニケーションを取ることも効果的です。

鏡を置いて、盗んだり、いたずらをする人に自分を見てもらうという対策方法もありました。河川敷の事例ですが、これも効果があったようです。

### テーマ2 イヌの糞尿への対策

植物の盗難・いたずらへの対応と同じく、地域の目で見ていることを発信するとともに、犬の散歩をしている人とのコミュニケーションを積極的にとることが大切です。横浜市の各区にある福祉保健センターでは、犬の糞放置防止の啓発プレートが無償で配布しているので、使ってみてもいいでしょう。

ある地区では、イヌの糞をレジ袋に入れて手の届かない換気口に載せられて

苦労しましたが、皆で掃除をし、きれいにする事で、そのようなことをする人はいなくなりました。また、嗅覚の強い犬の嫌がるミント植えることで、犬の糞の放置が減った事例もあります。人間にとってもハーブの香りが楽しみになる、一石二鳥の取り組みでした。

### テーマ3 予期せぬ出来事への対応

活動を続ける中で、代表の方が入院されたり、周囲との調整がうまく進まなかったりと、計画した時には想定していなかったことが起きることがあります。1人で抱え込まず、団体の定例会等で困っていることを異なる立場のメンバーと共有して解決策を探しましょう。対面で話ができるのが一番よいと思いますが、オンライン会議も現在は有効かと思えます。

また、交流会での意見交換や、活動場所・団体構成・地域の課題が似ている団体をホームページで公表されている地域緑化計画書で探して、相談してみるのも良いでしょう。

### テーマ4 組織の移り変わりへの対応

会長や事務局長など、特定の人に年間活動計画の作成や関係者との調整、助成金の書類作成などの事務が集中してしまうと、何らかの理由でその人が活動できなくなった時に会全体の動きが止まってしまうことが考えられます。地域緑のまちづくり事業では助成金を受けられる期間が協定により決まっているので、何かあっても活動が停滞しない団体づくりが重要です。ある地区では、継続的な活動を担保するために管理組合と自治会の両方につながる組織を立ち上げ、自治会、管理組合の役員交代にあまり影響されないような体制をとっています。ここでは、4つにチームを分け、それぞれ複数人が担当することで、特定のリーダーに仕事が偏らず、事情により担当者が抜けても、問題なくカバーできました。このような組織運営の方法は、他地区でも参考になります。

また、得意な人に得意なことをしてもらい適材適所の組織作りも非常に重要です。構成員が毎年変わる自治会などの団体と常に情報交換し、常に関わりを持つことで、新しい仲間が見つかり、活動の幅が広がるとよいと思います。組織の中で活動の切り口や活動内容が変わったら一回去った人も参加してくれるかもしれません。いつも温かい目で、去る者は追わず来るものは拒まず。ボランティアは楽しくなかったり、辛い思いをしてやるものではないので、ボランティアはやめてもいつでも遊びにきてね、の精神も大切です。ある地区では「管理してくれてありがとう」というメッセージを手渡し、ポスティングをしてコミュニケー

ションを大切にしているといった事例もあります。

#### **テーマ5 活動資金の確保への工夫**

活動を継続するための資金確保についても、皆さんの心配事かと思えます。団体にもよりますが、管理組合や自治会など、母体となる団体に働きかける事例が多いようです。講習会の経費は助成金の「緑化活動費」から支出し、参加者から実費と活動支援金を含む形で受講料を徴収し、積み立てて事業終了後の活動資金に充当した事例や、苗を自前で生産し、苗の購入費の削減と通常1ポット100円以上する苗を50円程で提供し、資金確保をはかった団体もありました。地域で余った種や土、鉢などを分けていただくなどの工夫を記録した「工夫帳」をつけて、経費の削減に取り組んでいる団体もあります。

#### **テーマ6 メンバーの継続的な確保への工夫**

多くの団体で寄せ植え講習会・お花植え替え会・植栽手入れ講座・ハンギングバスケット講座など、地域に開かれた多くのテーマの講習会を、助成金を使って開催し、活動の参加者の裾野を広げています。また、これまでの活動・これからの活動・新しいメンバーの募集を地域に広くPRするためにも、広報誌の発行・SNSによる情報発信を積極的に行うことも大切です。

日々の活動から、店の前の花への水やりやゴミ拾いを行い、水が余ればお隣さんの花にも水やりし隣のゴミも拾う、という繰り返しをすることで、メンバーが広がり、きずなが強まった商店街もあります。地域の子どもたちと高齢者をつなげて、幼稚園、小学校、中学校、ケアプラザなどとの協働緑化事業を展開する事例も多くみられます。

#### **テーマ7 組織での活動継続の工夫**

テーマ4、6と同じく、活動の参加者を新しく取り入れ、既に参加している人には楽しく活動を続けてもらうことが大切です。特に若い人に新しく参画してもらおうとしたときは企画から参加してもらうのが一番です。働き手としてだけお願いすると長続きしません。また、人によって関心事は異なるので、団体で幅広い分野の活動をしていれば、それだけ多くの人の興味を引くことになります。

ある地区では委員長、副委員長、事務局長、広報担当、作業指導担当の役割分担を明確にすることで、広い地域の緑化を行いました。活動の拡がりに応じて拠

点毎に地区リーダーを配置し、水やり、植え替え等を行うため、緑化指導や作業指導を進める仕組みを構築したことが、協力者・ボランティアの参加と、活動の継続につながりました。

1つの団体のみ活動に終わらず、自治会や管理組合、公園愛護会と協力して活動を進めている団体もたくさんあります。共同代表制や部会制といった分権的な仕組みが重要です。自治会・町内会の役員だけでは、地域緑のまちづくり事業を推進するのは難しいので、役割を複数体制にして持ちまわってみてはどうでしょうか。やらなくても良い仕事は思い切ってやらなくする、なども負担感を減らし、活動の継続につながります。

特定非営利活動法人  
横浜プランナーズネットワーク  
吉田洋子 内海宏  
山路清貴 大澤浩一  
山本耕平 菅博嗣